

話題：富山の地震について（続）

話題提供者：川崎一郎

主として富山県の被害想定と津波シミュレーションを素材に、富山が抱える地震動による被害のリスク、地震に伴う火災のリスク、液状化のリスク、津波のリスクのおさらいを行った。要点は次の通り。

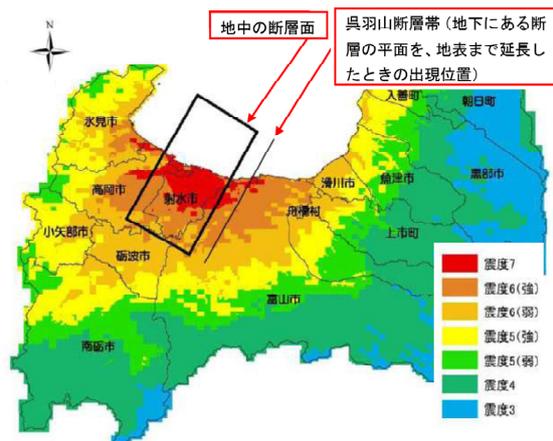
①最大の災害要因は呉羽山断層。富山市地域では、安田城跡から、富山大学と五幅公園の境界、富山北大橋、JR東富山駅西方を通り、田畑あたりで海岸に抜ける。

②県の震度予測（第1図）では、高岡市で震度7、富山市中心部で震度6強、想定死者4000人強。しかし、想定地震断層面上端が深さ2kmで止められており、富山市域には過小評価になっている恐れ。

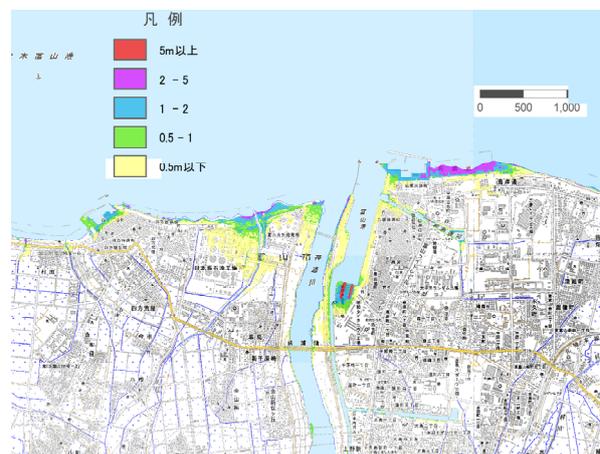
③富山の中部市街地は古い家屋が多く、火災のリスク大。密集市街地の強力な地震対策が必要。

④1分以内に数メートルの波高の津波が来襲。しかし、遡上範囲は多くの海岸線で300m以内。想定死者は120人程度。海岸に面した住宅地では大きな被害が予想される。

⑤断層線で大きな断層崖が地表に表れるかも知れない。そうなると、断層線上の家屋に大きな被害がでる。多くの人が集まるような公共施設を断層線上に建てることを禁止すべき。



第1図 富山県の呉羽山断層を措定断層とする震度想定。富山県のHPによる。



第2図 富山県の津波シミュレーションにより神通川河口域の浸水範囲。想定断層。断層呉羽山は富山県のHPによる。